

J:COM 主催オンライントークショー イベントレポート

## 益若つばさ、子どものネットとの関わり方を語る

### 「10代の頃からネットで中傷を受けてきた」

#### 中学生の子育てに「選択させる」重要性を熱弁

MCは漫才コンビ なすなかにし「オンラインゲームの相手が小学生だった」  
～中高生のコミュニケーションの現状を語る～

JCOM 株式会社(以下、J:COM)は、インターネット、モバイルサービスを提供する事業者としてネットリテラシーの向上を図り、中高生の「ネットライフ」について考えるきっかけを作るため、オンラインイベント「今こそ考えたい、ネットライフを充実させるためのマナー」を3月25日(金)に行いましたので、当日の様子をご報告いたします。

本イベントでは、中学生のお子さまのママでもある益若つばささんが出演し、実際に見聞きした子どものネット上でのトラブルや、子どもたちがネットと上手く向き合うためのポイントなどについて、自身の見解を交えながら話しました。また、情報リテラシーアドバイザーとして J:COM の粟津千草が登場。いとこ同士の実力派漫才コンビ「なすなかにし」が MC を担当。子どもたちをネット社会から守るための心構えについて、参加者と共に深く考えるイベントとなりました。



## ＜イベントレポート＞

## ティーンのカリスマ・益若つばさ 自身が 10 代の頃のネット事情について「掲示板などで中傷を受けた」



最初のトークテーマは「お子さまのネットライフについて」。ティーンのカリスマとして、いち早くネットを通じた発信を行ってきた益若つばささんですが、自身が 10 代の頃のネット事情について「当時は Twitter や Instagram ではなく、ブログやプロフィールサイト、掲示板などがあり、そこで中傷された経験ももちろんあります。初めてネットを繋いだときは『お金がいくらかかるんだろう?』という不安もありました。ネットが普及して知識は増えたと思うのですが、間違った情報も多いので、それを自分で精査していくのは大変ですよ」と当時を振り返りつつ、ネットを上手に使う難しさを語りました。MC のなすなかにしも「江戸時代に生きていた人の一生分の情報が、今は一日で手に入るらしいですよ」と、驚きの補足情報を伝えます。これに対して、情報リテラシーアドバイザーの栗津千草は「子どもはスマホもタブレットも大人と同じ物を使っていますし、同じサイトを見ることができる。子どもたちは危険性をよく知らないのに、大人と同じような危険に曝されているというのが現状です。また、ネットには 3 大トラブルというのがあり、1 つめが『ネットのコミュニケーション』、2 つめが『お金』、3 つめが『時間(使いすぎ)』です。さらに、4 月 1 日から 18 歳以上が成年になり、たとえ高校生でも契約の際に保護者の同意が不要になるので、一度契約をすると後から取り消しができなくなってしまうというのが懸念されています」と、トラブルの具体例について解説。益若さんも、お知り合いから聞いたエピソードとして「ギガの拡張が、ボタン 1 つでできてしまうじゃないですか。それを分からずに、子どもがボタンを押すすぎてしまい、数十万円の請求が来てしまったという話を聞いたことがあります。でも、子どもは悪いことだと思っていないですし、親自身も仕組みを理解していないケースもありますよね」と、ネットならではの『お金』に関するトラブルについて話しました。

便利でいろいろなことができる一方で、トラブルも頻発している子どものネット利用。子どもがネットと向き合う上で大事なことについて、栗津は『事前に知識を得る』、『調べる』、『確認する』、『相談する』が大事。先ほどの益若さんのお話もそうなのですが、ボタンを押す前に『これって押して良いのかな?』と立ち止まったり、『利用規約』が出てきたら親御さんに内容を確認してもらおうと良いですね。一方で、中高生になると親に相談することが恥ずかしいと思うかもしれないのですが、そこは親子でコミュニケーションをとり、お子さんからきちんと話をしてもらいたいです」とコメント。さらに、小中学生に向けた『ZAQ あんしんネット教室 by J:COM』の開催や、私生活におけるネットトラブルを対処するための補償がある保険『ネットあんしん保険』など、J:COM グループが行っている取り組みについても伝えました。これについて益若さんは「10 代の頃に誹謗中傷を受けて、大きなショックを受けました。今なら乗り越えられるけれど、当時は外を歩くのすら怖くなってしまい…。近しい友達ですら『私のことを嫌いなんじゃないか?』と疑心暗鬼になってしまうこともありました。ネットはあくまでもネットと割り切らないと、子どもに限らず、傷ついてしまう人は多いと思います。書き込むほうはもちろんですが、受け取り方も考えていかないといけないかもしれませんね」と傷ついた過去を打ち明けました。J:COM の取り組みについては「すごくありがたいと思います。私が 10 代の頃はネットの使い方について勉強する機会がなく、自分たちが親世代になったとき『こういうことが危ないんだよ』と子どもに伝えても、子どもには『自分たちのほうが知ってるよ』と思われてしまうんですよね…。だから、一緒に学べる機会があるのはとても良いですね。親だから、必ずしも教える立場になるのではなく、子どもに教えてもらっても良いと思いますし、子どもに歩み寄るのも大事だと思います」と感心した様子を見せました。

**益若、中学生の息子との関わり方について「デメリットを伝え、自分で選択させることが大事」**

続いて、子どものネット上のコミュニケーションについて、粟津は「LINE の他に、最近は“オンラインゲーム”も主流になってきています。ゲームはどんな年代の人でも楽しく遊べるため、親が知らないところで、幼い子どもや中高生がゲーム上でコミュニケーションを取っていることがあります。そして、親が知らないうちにトラブルに巻き込まれてしまうことも。お父さんはブレーキがきかず、熱中すると普段使わないような言葉を使ったりすることもある。親御さんはそれを聞くと驚いてしまいますよね」と問題点を指摘。これについては、なすなかにし・中西も経験があるようで「僕もオンラインゲームをやったことがあるのですが、ゲーム中にすごく指示をしてくる人がいて。言うことをずっと聞いていたら『僕、明日算数の授業があるから、これで』と言われて、小学生だと気付いたんです。その子に、ゲーム中『雑魚だね』と言われたりもしましたね…」と笑いを交えながらエピソードを語りました。

こうした、ネットならではのコミュニケーションの危険性について、益若さんは「もちろん阻止したいと思うのですが、難しいですね。私も、中高生くらいになると、自分のことは自分で解決してきてしまいました。そういうときに、“教える”のではなく、どのように“聞き出すか”が重要になってくると思います。親の目線ではなく、フランクに、ひとつの家庭の話題として持ち出すように話したら良いのかなと。探っているように思われたら、子どもも言いたくなくなってしまうので、子どもとの距離感やコミュニケーションは大事になってくると思います」と持論を展開。これに対し粟津は「大人としては守りたいという意識が先行して『やってはダメ』と言ってしまうがちなのですが、益若さんが仰るように、自分が子どもだったときのことを考えると、そういう親の言動は『ウザい』ですね」と、子どもとコミュニケーションを取る際の懸念点についても触れました。

また、SNS 上での自分自身の発言について、益若さんは「私が気を付けたいと思うのは、単純なつぶやきが全世界へ発信されてしまうということ。自分が発信した言葉を『家の玄関に貼っても恥ずかしくないか?』と考えるようにしています。中傷は子どもだけの問題ではなく、親世代にも酷いことを発信する人はザラにいますよね。何か間違ったことをした人に対して正義を振りかざし、キツイ言葉を浴びせる人は多いと感じます。それを子どもが見たら『大人がこんなことしているんだから、自分たちもしていい』と勘違いをしてしまうと思うんです。間違ったことをしたり、知らなかったことがあるからといって、傷つけるような言葉を投げかけて良いわけじゃないということをお伝え、自分たちも理解していく必要があると思います」と、ネット上に蔓延る誹謗中傷について自身の経験を交えながら語りました。

さらに、なすなかにし・那須の「ネットを使う側の想像力が大事になってくるんですかね」という意見に対し、粟津は「イメージをするのはとても大事です。保護者によくお話しているのは、保護者が自分の家族に使っている言葉や態度を、子どもはそのまま引き継いでいくということ。それまでの親の態度やスマホの使い方、ネットとの関わり方を見て子どもはすでに学んでいるんです。我々、大人もネットとの付き合い方を見直すべきですね」と、大人が注意すべき点についても解説しました。益若さんは、「私は、子どもに SNS のデメリットをたくさん伝えるようにしています。でも、それを踏まえた上で、自分にとってメリットがあったり、楽しみたいと思えるようになったら SNS を使ってもいいと思っています。だから、本人はまだ少し SNS は怖いと思っているみたいです。正直な話、親としてはこのまま SNS を使ってほしくないという思いはあるけれど、子どもにも色々な事情があるので、そこはなるべく子どもに寄り添っていきたくて考えています。だから、デメリットをしっかりと伝えた上で、止めはせず、自分で選択させるようにしています」と、子どもと SNS への向き合い方について力強く語りました。

**視聴者からの「子どもとの間に情報格差がある」という質問に対し 益若「親世代はもっとミーハーで良い」**


イベントの後半では、視聴者からの質問に対して、粟津と益若さんが回答する Q&A コーナーを実施。まず、一つ目の「家庭で時間のルールを決めていますけど守りません。どうすればいいのでしょうか？」という質問には、粟津が「これも、先ほど益若さんが仰っていた『選択』だと思います。ルールを守る、守らないの選択をする際、大人からの情報提供が少ないと、お子さんは『なんで守らなきゃいけないの?』と誤ってしまいます。どうして時間を守ってほしいのかという親御さんの気持ちを伝えつつ、お子さんが選択できるようにメリット・デメリットをお話してもらったのが良いのかなと思います」と益若さんの意見を踏まえて語り、益若さんも「自分で選択させて、話をさせるのが必要だと思います。相談されている方は、もっと勉強の時間を増やしてほしいと感じているのではないのでしょうか。私は、勉強をしなればどれだけ将来の選択肢が狭まってしまうかについて、子どもに伝えるようにしていますね」と、自身の教育方針を交えながら答えました。

続いて、「オンラインゲームで会ったことがない人と話しているようです、大丈夫でしょうか？」という質問には、粟津が「お話することに問題はないと思います。ただ、そこでは大人と同じマナーを求められるので、日頃から会話のマナーをお子さんに伝えてほしいです。また、お子さん側も、知らない人と会話をするときは『こういう人と話をしながらゲームをしているよ』ということを親御さんに伝えたほうが良いですよ」と語り、益若さんは「私の姪っ子は、オンライン上で知り合った友達と遊ぶようになり、その繋がりから今の旦那さんに出会い、結婚したんです。そういう出会いの広がりもあつたりするので、本当に使い方次第ですよ。もちろん怖いこともあるので、そこは理解しておいたほうが良いですけどね」と同意しました。また、「まだスマホを持たせていません。仲間外れなどが心配です」という質問には、「スマホを持っていないことについて、お子さんが納得するのが大切。私の親戚も学生時代はスマホを持たずに友達とやりとりしていたそうなのですが、友達はみんな家の電話にかけてくれたようですよ」という粟津の意見に対し、益若さんは「スマホを持たせていない理由が何かにもよりますよね。金銭面なのか、心配で持たせないのか。いずれにしても子どもとしっかり会話をしていけば、友達からスマホを持っていないことについて指摘を受けた際にもきちんと理由を説明することができる。子どもは意外と“子ども”ではないので、『なぜ持たせないのか?』という理由を伝えてあげれば理解してくれると思います」と自身の思いを伝えました。

そして、最後の質問「若者が持っている情報量のほうがはるかに多く、中途半端な知識で忠告しづらい。大人と子どもの情報格差の埋め方についてどうお考えですか？」に対し、粟津は「親がネットを拒絶するのではなく、ネット時代を受け止め、子どもに教えてもらう姿勢も大事ですよ。私も学校ではお子さんたちにたくさんのお話を聞いてもらっています。お子さんたちも、自分の知っていることを話したいという思いがあるんですよ。興味を持って、お子さんの話を聞くのが大切です」と実際に子どもと触れあった経験を交えながら話し、益若さんは「子どもが興味をもっているものに自分も参加するよう努力しますね。すると、見えていなかった世界が見えてくると思うんです。年齢が上がってくると、新しいものを取り入れることに抵抗がありますよね。でも、親世代はもっとミーハーで良いと思います。もし子どもがTikTokにハマったとしたら、私は子どもよりもたくさん調べて最先端情報を得ようと思います。親の方が詳しくかったら、尊敬にも繋がりそうですよね(笑)。子どもの趣味に興味を持ち、一緒に楽しむようになれば、普段の会話も盛り上がるようになると思います」と、益若さんならではの関わり方について説明しました。

最後に、益若さんは「学校をまわって『ネットあんしん教育』をされたり、『ネットあんしん保険』があったりなど、私たちが知らないことをたくさん教えてもらいました。色々な情報が常にアップデートされているので、調べることが大切だと感じましたね。拒絶するのではなく、ミーハーに受け入れ、子どもと情報を共有する。親と子ではなく、友達同士のような関係で、これからも自分の子どもと関わっていけたらいいなと思いました」と、本日のイベントで得られた学びや気づきについて清々しい表情で話しました。

## 出演者プロフィール

### 益若つばさ

モデル/商品プロデューサー

1985年10月13日生まれ、埼玉県出身

高校生の頃から読者モデルとして雑誌に登場し、2006年頃より雑誌『Popteen』で大ブレイク。

カリスマモデルとして女子を中心に絶大な支持を得る。

現在は、美容関連商品や雑貨など多方面で商品プロデュースを行い、その経済効果は日本国内だけにとどまらず海外を含め100億円以上にも及ぶと言われている。



### MC: なすなかにし

中西茂樹(写真左)、那須晃行(写真右)による実力派漫才コンビ。

2人はいとこ同士でもある。

小さい頃から仲が良く、「ずっと一緒にいたいから」という理由でコンビ結成。

中西考案オリジナルゲームは約100以上あり、NTV「ウチのガヤがすみません」「ガキの使いやあらへんで」TBS「王様のブランチ」など多くの番組へ出演している。

ロケに定評があり、2021年NTV「笑神様は真夜中に」では中堅芸人ロケバトルにて優勝。

NHK「あはれ！名作くん」ではメインキャラクターの声優を担当。

2021年映画「竜とそばかすの姫」へも声優出演。



### 講師: 粟津千草

平成23年より情報リテラシーアドバイザーとして現職。子ども達の「心に残る」情報モラル講座を行えるよう、日々ネットに向き合う。

「ITパスポート」試験合格

「情報セキュリティマネジメント」試験合格

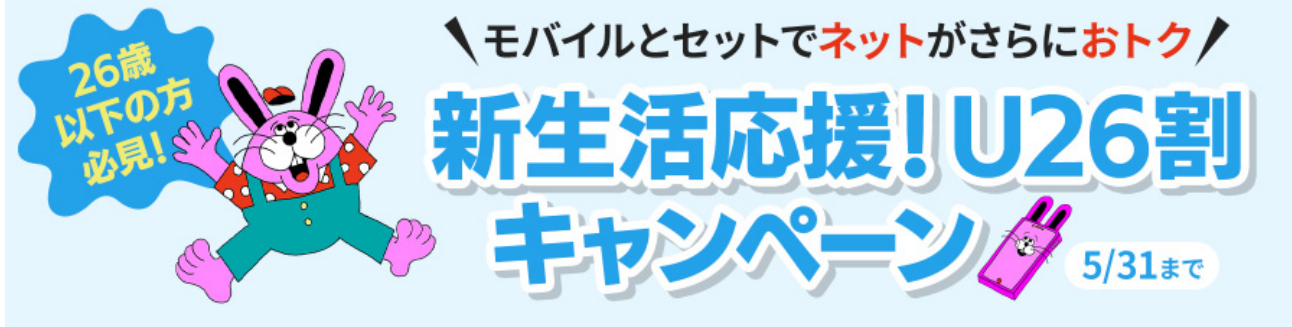
「インタラクティブ・ティーチング(gacco)」修了

「CAPスペシャリスト養成講座」修了

平成29年6月、近畿総合通信局管内で初の感謝状を受賞

令和2年6月、近畿情報通信協議会会長表彰受賞





26歳以下の方必見!

モバイルとセットでネットがさらにおトク!

# 新生活応援! U26割

## キャンペーン

5/31まで

集合住宅にお住いの26歳以下のお客さまなら、J:COM MOBILE と J:COM NET がセットで6ヵ月 2,709円 (税込 2,980円)\*からご利用いただけるお得なキャンペーンを実施しております。

\*7ヵ月目以降は、4,180円(税込 4,598円)

詳細は J:COM の WEB サイトをご確認ください [https://www.jcom.co.jp/campaign/newlife\\_u26/](https://www.jcom.co.jp/campaign/newlife_u26/)

## ネットあんしん保険

ネットトラブルに備える  
補償とサービス



J:COM では、グループのジェイコム少額短期保険より、「子どもが SNS いじめにあった」「身に覚えのない高額請求が届いた」「うっかりデータを消去してしまった」などのインターネットトラブルに備える保険サービスも提供しております。

同居のご家族も、補償の対象/  
ネットあんしん保険

月額 **750** 円

保険期間  
1年

<https://www.jcom.co.jp/service/ssi/net/>

JCOM 株式会社について [www.jcom.co.jp/](http://www.jcom.co.jp/)

JCOM 株式会社(本社:東京都千代田区)は、1995年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの11社66局を通じて約559万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電力等のサービスを提供しています。ホームパス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約2,200万世帯です。番組供給事業においては、14の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IPマルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。※世帯数は2021年12月末現在の数字です。

当社は、2021年7月1日に株式会社ジュピターテレコムから JCOM 株式会社に社名を変更いたしました。